

労働

賃金

平成30年の常用労働者の1人平均月間現金給与総額(事業所規模30以上の事業所)は35万3,083円でした。

産業別にみると、電気・ガス・熱供給・水道業が61万2,702円で最も高く、次いで複合サービス業の46万561円、建設業の45万288円の順となっており、宿泊業、飲食サービス業が14万5,835円で最も低くなっています。

図44 産業別1人平均月間現金給与総額(平成30年)

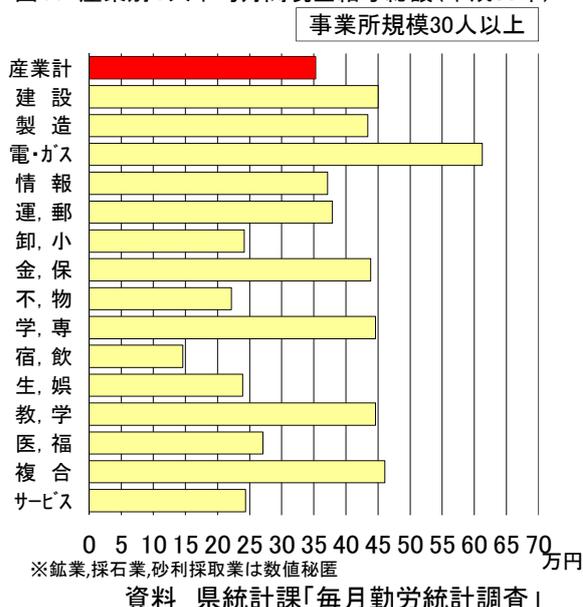
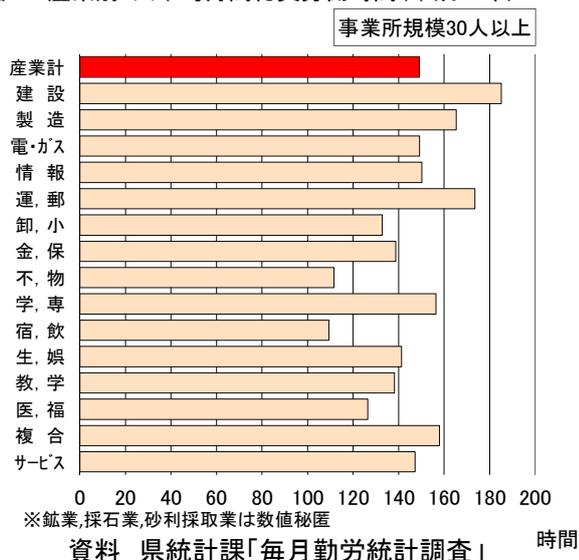


図45 産業別1人平均月間総実労働時間(平成30年)



労働時間数

平成30年の常用労働者の1人平均月間総実労働時間数(事業所規模30以上の事業所)は149.2時間でした。

産業別にみると、建設業が185.2時間で最も長く、次いで運輸業、郵便業の173.6時間、製造業の165.4時間の順になっており、不動産業、物品賃貸業が111.6時間で最も短くなっています。

雇用

平成30年度の年度平均月間有効求人数は3万9,292人で、前年度に比べ1,449人(3.8%)増加し、年度平均月間有効求職者数は2万2,921人で、27人(0.1%)減少しました。

有効求人数を有効求職者数で割った有効求人倍率は1.71倍で、前年度に比べ0.06ポイント上昇しました。

図46 雇用動向の推移

